

# 第7回 豊川水系流域委員会 【最近の河川事業を取り巻く話題】

令和4年 10月 26日

国土交通省 中部地方整備局

豊橋河川事務所

① 令和4年度の自然災害の被害	2
② 豊川流域の出水状況	10
③ 豊川水系流域治水プロジェクトの取り組み状況	12
④ 豊川治水協定に基づく事前放流の実施状況	20

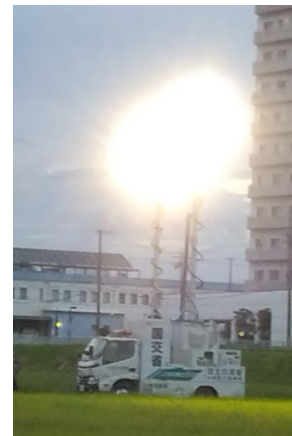
# ①令和4年度の自然災害の被害（令和4年7月末大雨）

- 令和4年7月26日から27日未明にかけて、東海3県において各地で大雨となり、気象庁より「記録的短時間大雨情報」が出された。
- 矢作川流域では、1時間雨量は岡崎市で67.5mm、西尾市で64.5mmなど、7月の観測史上最大を更新した。西尾市や岡崎市などにおいて、あわせて床上浸水が5棟、床下浸水が7棟発生。
- 安城市を流れる半場川では、川が増水し、堤防右岸が決壊し、近くの水田が浸水した。豊橋河川事務所では、ドローンによる被災状況調査とともに、照明車を派遣し迅速な復旧活動を支援した。



ドローンによる被災状況調査

現地で支援内容を打合せ

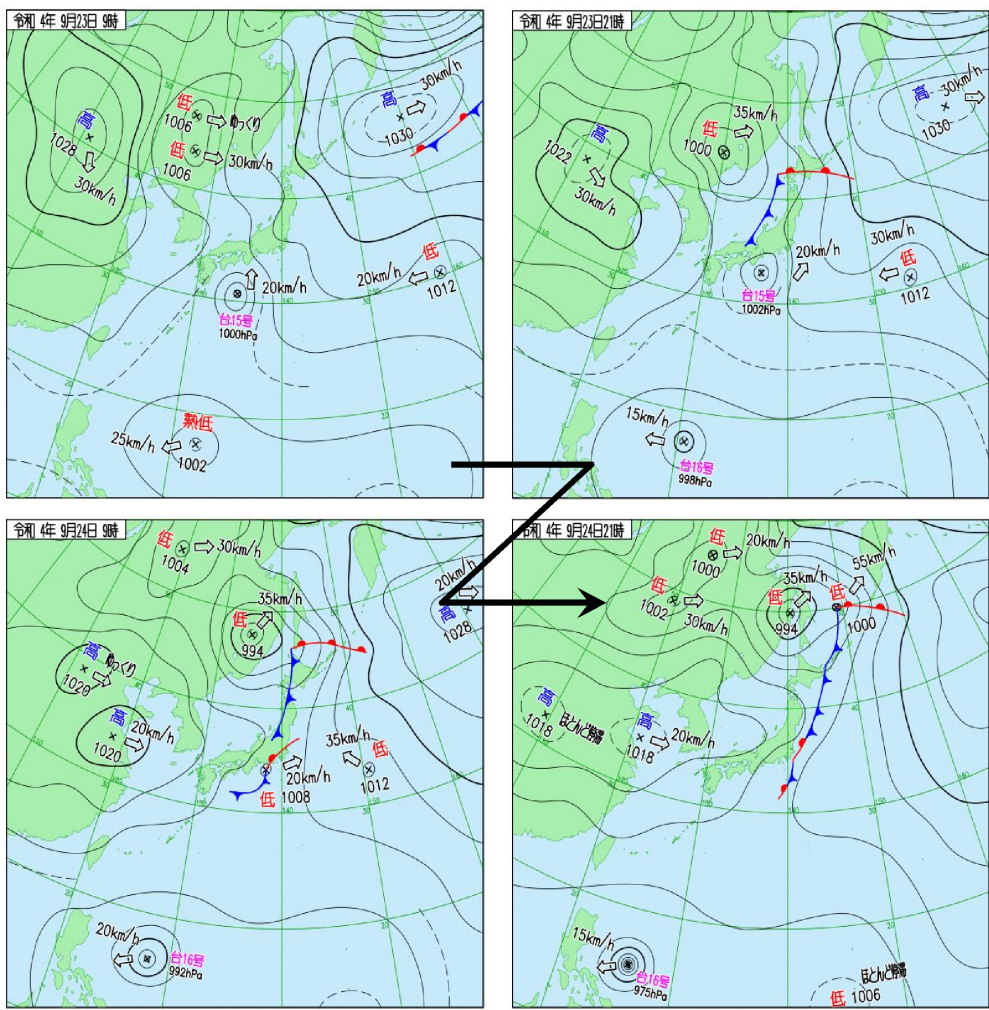


照明車による夜間作業支援

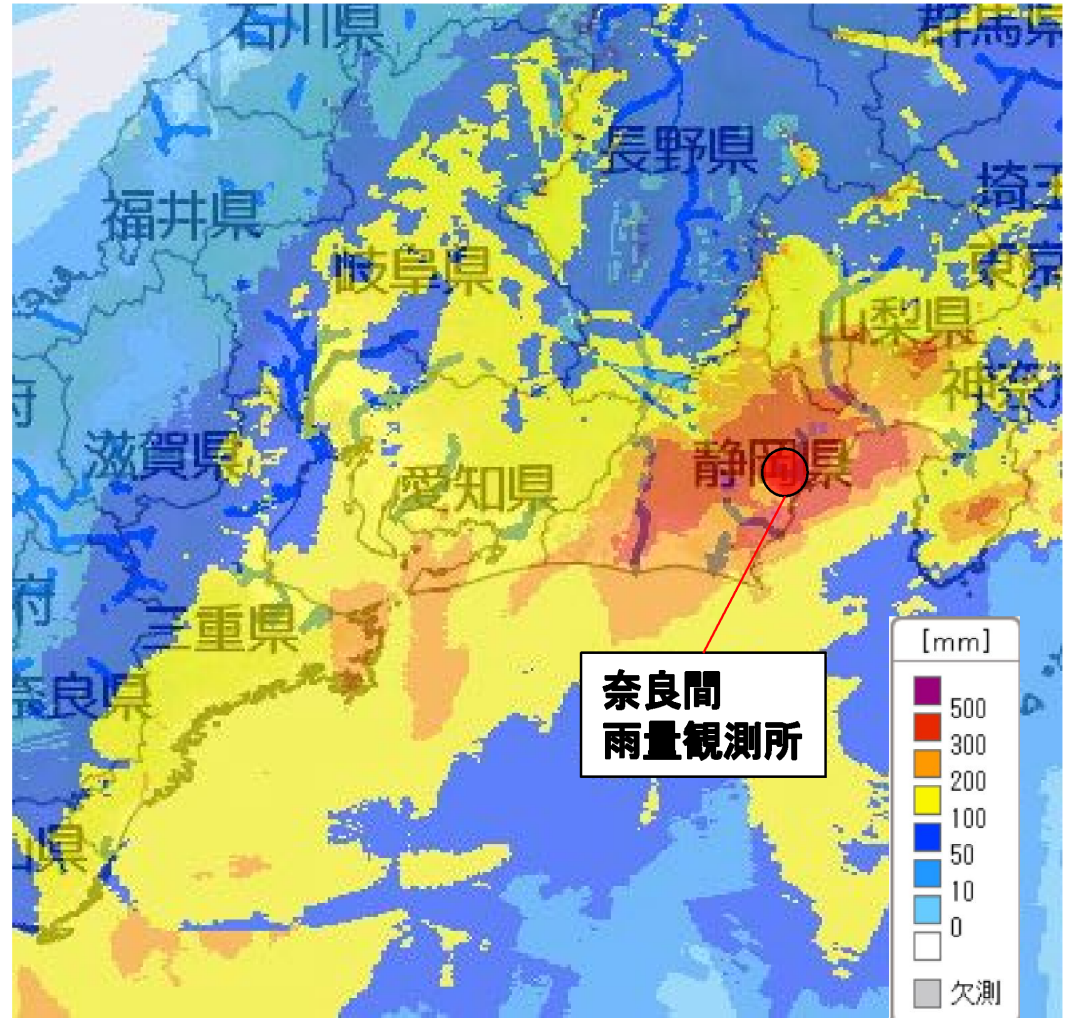
応急復旧完了  
(7月28日AM7時20分)

# ①令和4年度の自然災害の被害（台風第15号）

- 台風第15号により、9月23日から24日にかけて日本各地で非常に激しい雨となった。
- 中部地方整備局管内においては、広い範囲で降り始めからの総降水量が200mmを超過。
- また、9月23日から24日にかけて線状降水帯発生情報が3回が発表されました。
- 特に<sup>あべかわ</sup>安倍川水系、<sup>きくがわ</sup>菊川水系では流域で激しい雨となり、安倍川の<sup>ならま</sup>奈良間雨量観測所にて425mmを観測。



(気象庁ウェブサイトより)



9/23 1:00から9/25 7:00までの累加雨量

出典:『令和4年9月の台風第15号に伴う大雨』出水概要 令和4年9月29日・中部地方整備局河川部

([https://www.cbr.mlit.go.jp/kawatomizu/shussuijoukyou/pdf/indexR04\\_september\\_taihu15/chubuchisei\\_01.pdf](https://www.cbr.mlit.go.jp/kawatomizu/shussuijoukyou/pdf/indexR04_september_taihu15/chubuchisei_01.pdf))

# ①令和4年度の自然災害の被害（台風第15号）

詳細調査中

- 河川は、静岡県ほか2県が管理する計12水系23河川からの氾濫による浸水被害を確認。
- このうち、<sup>やはぎがわ</sup>矢作川水系<sup>こうたがわ</sup>広田川では堤防が決壊、家屋浸水なし。応急復旧完了。
- 砂防は、静岡県ほか7県において、計45件の土砂災害が発生。静岡県（掛川市）の1件で、死者1名。
- 道路は、高速道路・直轄国道で被災通行止め中の区間なし。補助国道・都道府県道で4県30区間が被災通行止め中。
- 鉄道は、1事業者2路線で運転見合わせ中。（土砂流入等）
- 静岡市の断水に対し、静岡県の工業用水（富士川水系）からの融通を許可（9/25～）
- 海上保安庁が、断水が続く静岡市からの要請に対し、24日から巡視船による給水支援を実施。  
また、中部地方整備局が、飲用水や雑用水として給水可能な車両及び船舶を、25日から静岡市・川根本町に派遣。

**やはぎがわ こうたがわ こうたちよう**  
矢作川水系広田川（愛知県幸田町）（堤防決壊）  
（応急復旧完了）

**おおいがわてつどう かみおろ みくよう**  
大井川鐵道 神尾～福用駅間（土砂流入）

**はままつし しょうげつばし**  
静岡県浜松市道（嘯月橋の一部損壊）

**かけがわし ゆけ**  
静岡県掛川市遊家（土砂災害）

**ともえかわ**  
巴川水系巴川（静岡県静岡市）（河川氾濫）

死者：1名  
全壊：1戸

# ①令和4年度の自然災害の被害（台風第15号）

## 土砂災害発生件数

**86件**

- 土石流等： 25件
- 地すべり： 0件
- がけ崩れ： 61件

### 【被害状況】

- 人的被害：死者 1名
- 負傷者 3名
- 家屋被害：全壊 2戸
- 半壊 2戸
- 一部損壊 14戸

9/24 かけがわしゆけ  
がけ崩れ 静岡県掛川市遊家



死者：1名

9/24 はままつしてんりゆうりよくけいだい  
がけ崩れ 静岡県浜松市天竜区緑恵台



負傷者：3名

9/24 かわねほんちょうたのくち  
土石流等 静岡県川根本町田野口

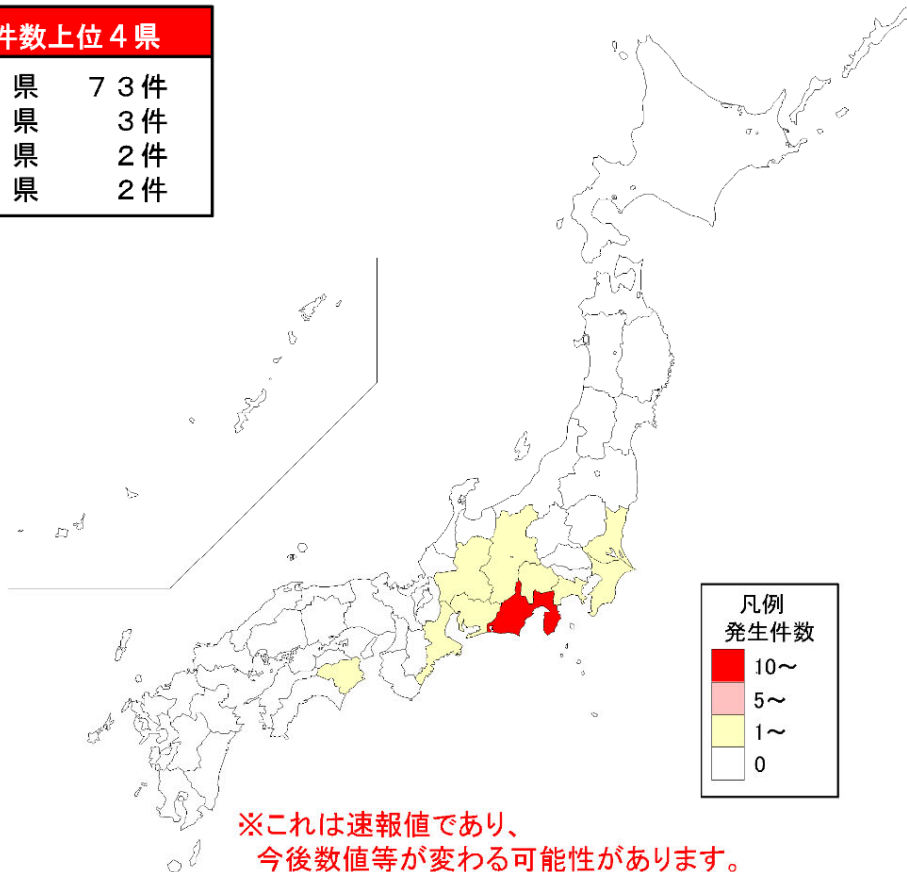


9/23 おかざきしこうりゆうじちようほんごう  
がけ崩れ 愛知県岡崎市高隆寺町本郷



### 発生件数上位4県

静岡県	73件
愛知県	3件
千葉県	2件
三重県	2件



9/24 しずおかしあおいくゆやま  
土石流等 静岡県静岡市葵区油山



9/23 くまのしきのもとちようてらまえちよう  
がけ崩れ 三重県熊野市木本町寺前町



9/24 かとりし さわらい  
がけ崩れ 千葉県香取市佐原イ



# ①令和4年度の自然災害の被害（台風第15号）

- 中部地方整備局管内の国管理河川では、安倍川水系安倍川、菊川水系菊川及び支川牛淵川で氾濫危険水位を超過し、雲出川水系波瀨川<sup>はぜがわ</sup>で避難判断水位を超過。
- ダムでは、大井川水系、庄内川水系、木曾川水系の4ダムで洪水調節を実施。

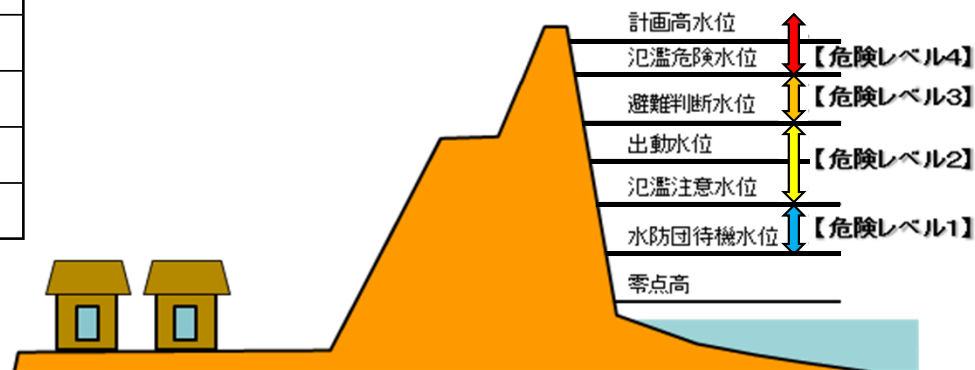
## 【水位状況】

## 【ダムの洪水調節状況】9月29日現在（水資源機構管理ダム含む（黄書き））

水系名	河川名	観測所名	今回 最高水位	水防団 待機水位	氾濫 注意水位	出動水位	避難 判断水位	氾濫 危険水位	計画 高水位
安倍川	安倍川	牛妻	9/24 1:40 3.31	2.20	3.00	3.70	4.10	4.60	5.51
		手越	9/24 2:10 4.23	1.50	2.40	3.00	3.40	4.00	4.82
	藁科川	奈良間	9/24 1:50 5.04	2.30	3.70	4.70	6.40	7.70	8.02
大井川	大井川	細島	9/23 4:20 2.30	1.30	1.70	2.20	2.70	3.30	4.99
菊川	菊川	加茂	9/23 22:10 4.23	1.50	2.50	3.20	3.20	3.50	5.94
		嶺田	9/23 22:50 5.33	2.00	4.30	4.90	-	-	5.94
	牛淵川	横地	9/23 21:40 3.78	1.80	2.10	2.30	2.30	2.70	4.06
		堂山	9/23 22:10 5.39	3.10	4.60	4.90	4.90	5.30	5.86
下小笠川	川久保	9/23 21:10 2.95	1.40	2.00	2.50	3.00	3.30	-	
天竜川	天竜川下流	池田	9/24 3:10 2.33	0.50	1.60	2.60	-	-	4.53
		中ノ町	9/24 3:40 1.95	0.60	1.60	2.50	3.10	3.40	4.77
矢作川	矢作川	岡崎	9/23 23:50 6.41	4.90	5.80	7.50	-	-	10.72
庄内川	庄内川	土岐	9/23 22:00 3.55	2.40	3.00	4.00	4.50	4.70	6.39
雲出川	波瀨川	下川原橋	9/23 14:40 2.34	1.70	2.20	2.20	2.20	3.40	3.49
櫛田川	佐奈川	西山橋	9/23 13:50 2.29	1.60	2.00	2.40	2.70	3.20	3.27

水系	ダム名	最大流入量	最大流入時の放流量	調節量
庄内川	おりがわ 小里川ダム	約95m <sup>3</sup> /s	約40m <sup>3</sup> /s	約55m <sup>3</sup> /s
大井川	ながしま 長島ダム	約998m <sup>3</sup> /s	約918m <sup>3</sup> /s	約80m <sup>3</sup> /s
木曾川	いわや 岩屋ダム	約320m <sup>3</sup> /s	約166m <sup>3</sup> /s	約153m <sup>3</sup> /s
	あぎがわ 阿木川ダム	約144m <sup>3</sup> /s	約118m <sup>3</sup> /s	約25m <sup>3</sup> /s

※氾濫注意水位を超過した観測所のみ表記



出典：『令和4年9月の台風第15号に伴う大雨』出水概要 令和4年9月29日・中部地方整備局河川部

([https://www.cbr.mlit.go.jp/kawatomizu/shussuijoukyou/pdf/indexR04\\_september\\_taihu15/chubuchisei\\_01.pdf](https://www.cbr.mlit.go.jp/kawatomizu/shussuijoukyou/pdf/indexR04_september_taihu15/chubuchisei_01.pdf))

# ①令和4年度の自然災害の被害（台風第15号）

- 台風第15号により安倍川支川わらしながわ藁科川9.0k左岸（静岡市葵区大原地先）において、洗堀による護岸損傷の被災を確認。
- また、安倍川支川やえざわがわ八重沢川（静岡市葵区横山地先）において土石流が発生。堰堤下流の製茶工場が被災。



## ①藁科川(静岡市)における被災状況



## ②八重沢川(静岡市)における被災状況





# ①令和4年度の自然災害の被害（台風第15号）

※9月27日 6時時点

主な浸水被害（※内外水含む）

（単位：棟）

番号	市町名	床上	床下	河川名
1	富士市	0	2	
2	静岡市	879	0	巴川、庵原川、興津川 ほか
3	島田市	51	121	伊久美川
4	焼津市	144	109	石脇川、小石川
5	藤枝市	127	66	調査中
6	牧之原市	19	57	調査中
7	吉田町	1	5	調査中
8	川根本町	7	4	調査中
9	浜松市	63	1689	安間川、馬込川
10	磐田市	242	419	一雲濟川、上野部川 ほか
11	掛川市	13	8	原野谷川
12	袋井市	105	187	沖之川
13	御前崎市	0	3	新野川、篠ヶ谷川
14	菊川市	4	48	調査中
15	森町	6	41	小薮川
計		1,661	2,759	

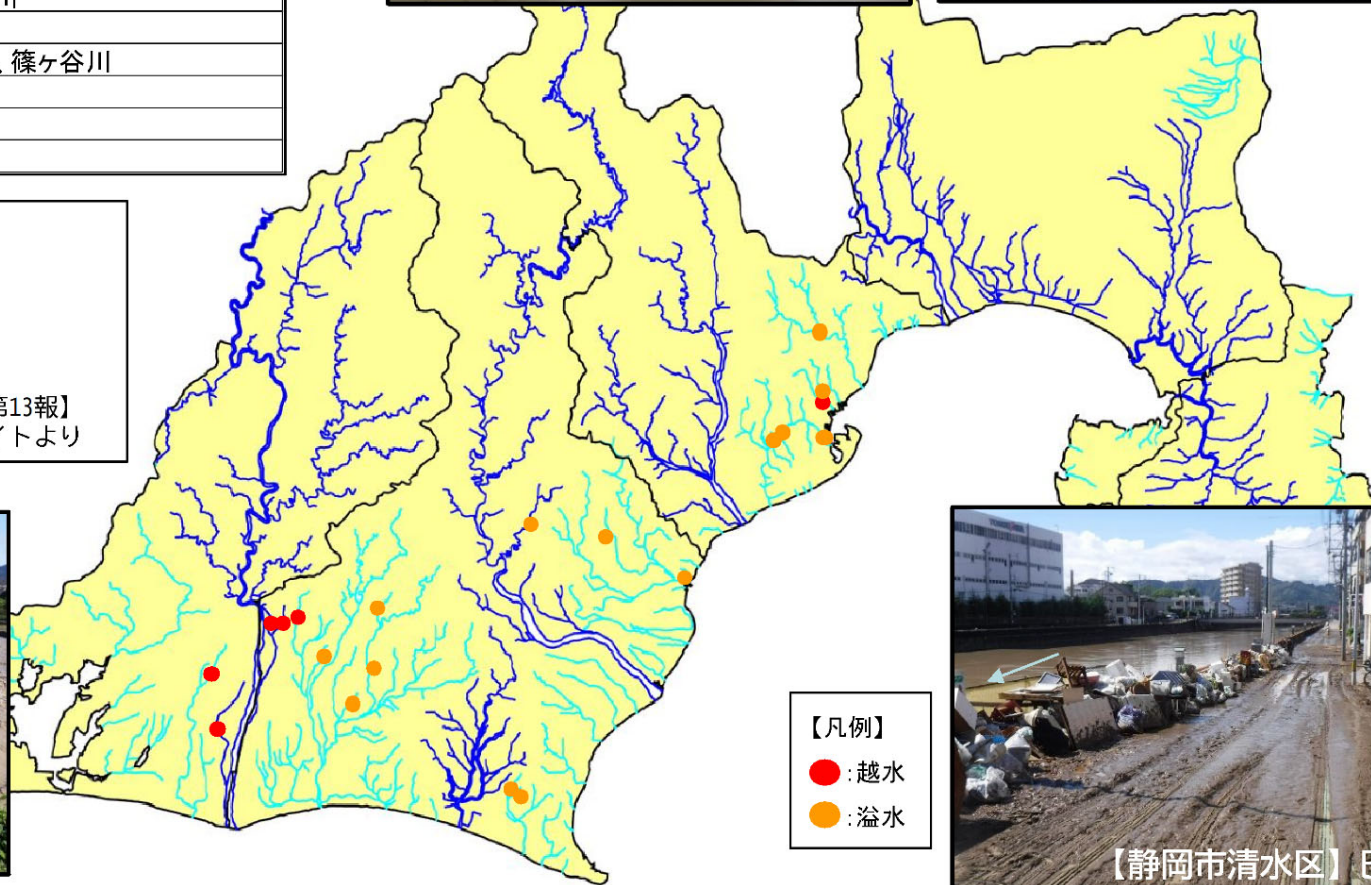


## 静岡県全体

床上浸水：1,661棟

床下浸水：2,759棟

※台風第15号による被害状況について【第13報】  
（9月27日8時00分現在）静岡県webサイトより



【凡例】  
●：越水  
●：溢水



# ① 令和4年度の自然災害の被害（台風第15号）

- 令和4年9月台風15号による愛知県渥美半島太平洋沿岸に大量の流木等が漂着。
- 愛知県、豊橋市からの要望を受け、豊橋河川事務所では、27日～28日に表浜海岸など延長約50kmにおいてドローンによる調査を実施。災害復旧の申請に向けたデータを提供。

位置図



豊橋河川事務所職員によるドローン調査状況



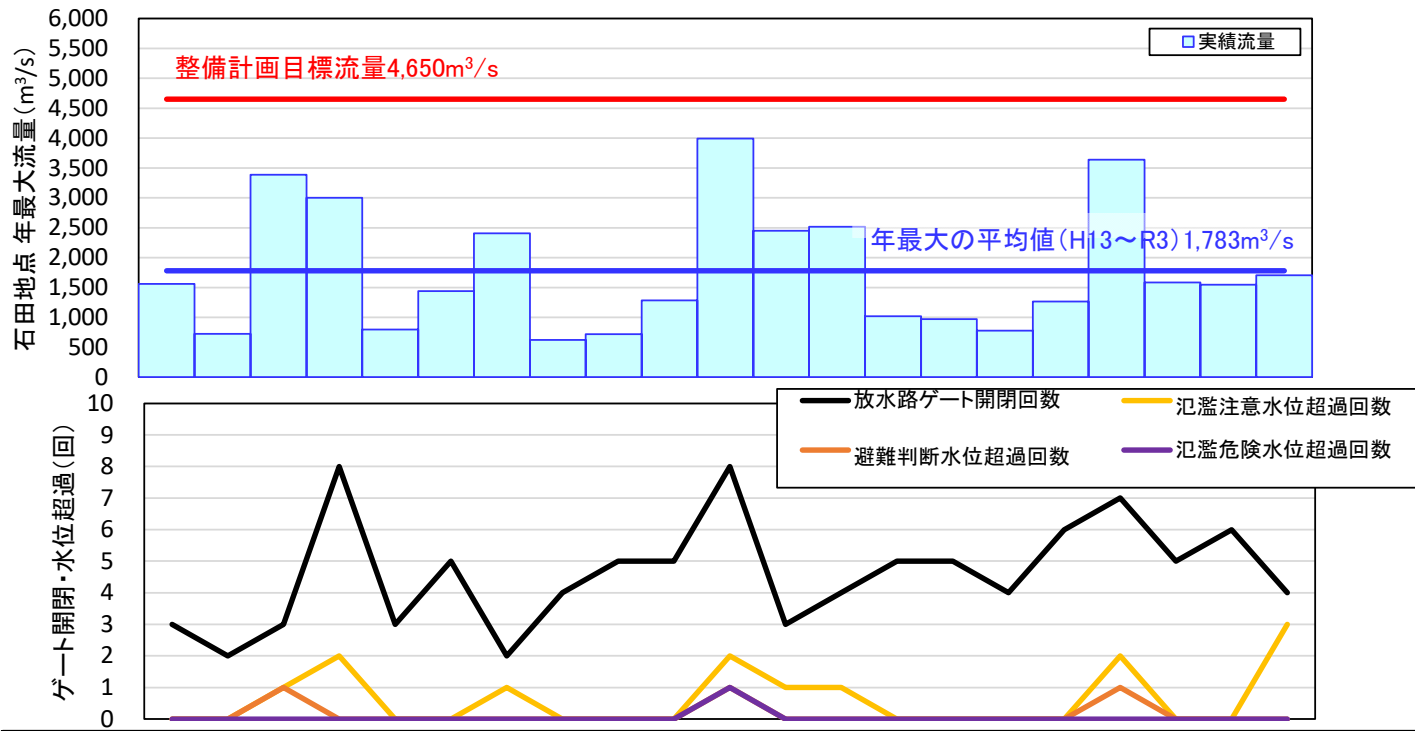
関係機関へのデータ提供状況



# ②豊川流域の出水状況（河川整備計画策定以降の洪水の発生状況）

- 平成最大となる平成23年9月洪水は、河川整備計画で河道整備の目標とする流量（河道整備流量）4,100m<sup>3</sup>/s（石田地点）に迫る3,991m<sup>3</sup>/sの出水である。
- 年最大実績流量の整理結果より、いずれの年も河川整備計画目標流量4,650m<sup>3</sup>/s（石田地点）を下回っている。
- 河川整備計画策定後の放水路ゲートの開閉回数は、2～8回で推移している。

## 【豊川】 整備目標（戦後最大洪水） 昭和44年8月洪水



	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4(参考)
放水路ゲート開閉回数(回)	3	2	3	8	3	5	2	4	5	5	8	3	4	5	5	4	6	7	5	6	4	7
氾濫注意水位超過回数(回)	0	0	1	2	0	0	1	0	0	0	2	1	1	0	0	0	0	2	0	0	3	0
避難判断水位超過回数(回)	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
氾濫危険水位超過回数(回)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

豊川の年最大流量(石田地点)と豊川放水路ゲート開閉・水位超過回数

# ②豊川流域の出水状況（令和3年度豊川流域における状況）

- 令和3年8月中旬、前線により、豊川流域において大雨が発生。
- 石田水位観測所において氾濫注意水位（4.20m）を約6時間超過し、ピーク水位は4.94mを記録した。今回の出水では4霞において、合計約53haの浸水が発生した。農地や道路等の一部に浸水が発生したが、家屋への浸水の発生は確認されなかった。



# ③ 豊川水系流域治水プロジェクトの取り組み状況

- 豊川水系河川整備計画（平成13年11月28日（平成18年4月6日一部変更））は、河川整備基本方針に基づいた河川整備の当面の目標であり、その対象期間は概ね30年とする。
- 令和3年3月には、気候変動の影響や社会状況の変化などを踏まえ、河川の流域のあらゆる関係者が協働して流域全体で行う治水対策、豊川流域治水プロジェクトを策定。

## 豊川水系流域委員会

### 豊川水系河川整備計画【H13.11策定、H18.4変更】

#### 利水

#### 治水（工事・維持）

#### 環境

霞堤対策  
（小堤、支川背水対策）

河道掘削・樹木伐採

耐震対策

設楽ダム建設

早期復旧等に備えた対策：  
・排水作業準備計画の検証（内水対策）

住民の主体的な避難行動を促す取り組み：  
・ハザードマップの作成・周知  
・住民の水害リスクに対する理解促進の取り組み  
・洪水プッシュ型情報配信  
・水害リスクライン配信  
・土砂災害リスク情報の現地表示  
・浸水予想図作成 等

ソフト対策のための整備：  
・霞堤地区浸水被害軽減対策計画  
・水害リスクの高い区間の監視体制の整備  
・水害リスク情報の空白域の解消 等

## 豊川水系流域治水協議会

### 豊川水系流域治水プロジェクト

#### 【R3.3策定、R4.3改定】

頻発・激甚化する自然災害に対応した「安全なまちづくり」に向けた取り組み：  
・立地適正化計画  
・土地利用規制・誘導（災害危険区域等） 等

流出抑制対策：  
・利水ダム等3ダムにおける事前放流等の実施、体制構築  
・下水道（雨水）整備  
・砂防関係施設整備  
・流域貯留池事業  
・治山施設の整備  
・森林の間伐  
・森林整備・保全 等  
放水路の機能保全・最大活用検討

被害軽減対策：  
・排水作業準備計画の検証  
・要配慮者利用施設の避難確保計画の作成促進  
・避難場所や経路に関する情報周知  
・土砂災害警戒区域等の指定・周知 等

# ③ 豊川水系流域治水プロジェクトの取り組み状況

○ 自然環境が有する多様な機能を活用した「グリーンインフラ」の社会実装により、CO<sub>2</sub>吸収源対策のほか、生態系の保全、雨水貯留・浸透等の防災・減災、ポストコロナの健康でゆとりある生活空間の形成、SDGsに沿った環境と経済の好循環に資するまちづくりなど、多面的な地域課題の複合的解決を図る、持続可能で魅力ある地域づくりを分野横断・官民連携により推進する。

## 《流域治水におけるグリーンインフラの活用推進等》

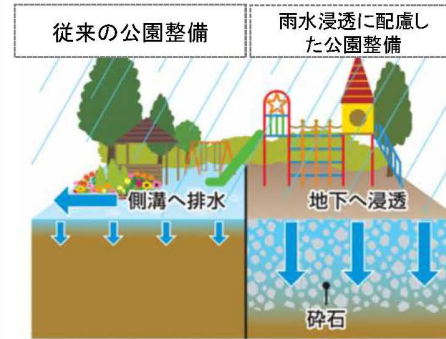
○ 気候変動による水災害リスクの増大に備えるため、流域に関わるあらゆる関係者により流域全体で行うハード・ソフト一体の「流域治水」において、雨水貯留・浸透機能を有するグリーンインフラの活用を推進

※流域における雨水貯留対策の強化等を含め、「流域治水」の実効性を高めるための「流域治水関連法」が成立(R3.4)

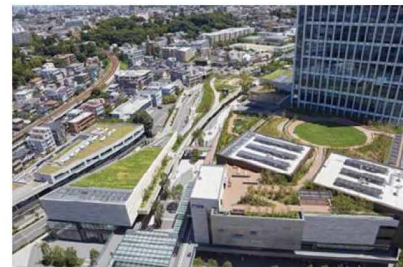
## 《生態系ネットワークの保全・再生・活用、健全な水循環の確保、CO<sub>2</sub>吸収源の拡大、ヒートアイランド対策の推進》

○ 都市の緑地の保全・創出、屋上・壁面緑化を含む都市緑化、まちなかウォークアブル推進プログラム等による都市の緑地の活用等

○ 河川を基軸とした生態系ネットワークの形成、かわまちづくり等の魅力ある水辺空間の創出

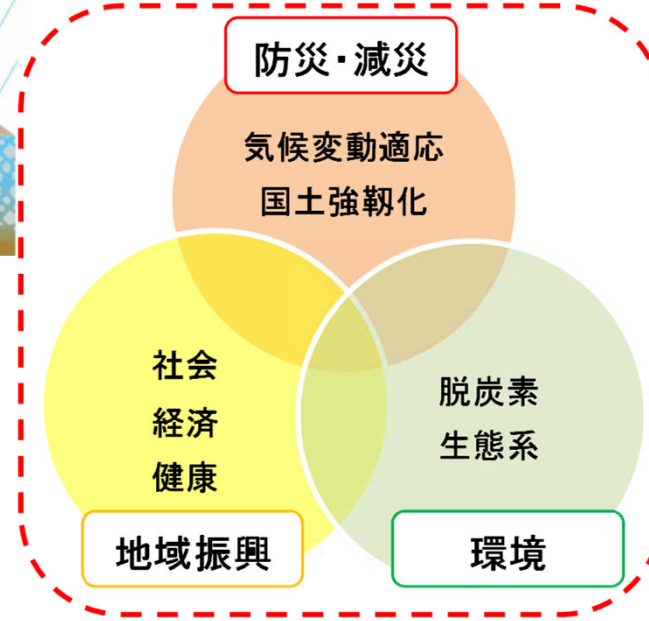


雨水浸透や緑陰形成等に配慮した公園整備



二子玉川ライズ

## グリーンインフラ



## 《グリーンインフラ官民連携プラットフォームの活動拡大等を通じた社会実装の推進》

※産学官の多様な主体が参加する情報・ノウハウ・技術・経験の共有の場【会員数1,117(R3.5末)】

企画広報部会

技術部会

金融部会

○グリーンインフラの社会的普及(パートナーシップ構築等)

○グリーンインフラ技術の調査研究(効果評価等)

○民間資金活用方策の検討(グリーンボンド等の活用)



コウノトリの野生復帰



Marunouchi Street Park 2020

## 《グリーンファイナンスを通じた地域価値の向上》

○グリーンインフラを活用した魅力的な都市空間の再構築、低未利用地を活用した地域空間の再生等への民間資金の活用

出典:「国土交通グリーンチャレンジ概要、令和3年7月6日」(<https://www.mlit.go.jp/report/press/content/001412432.pdf>)

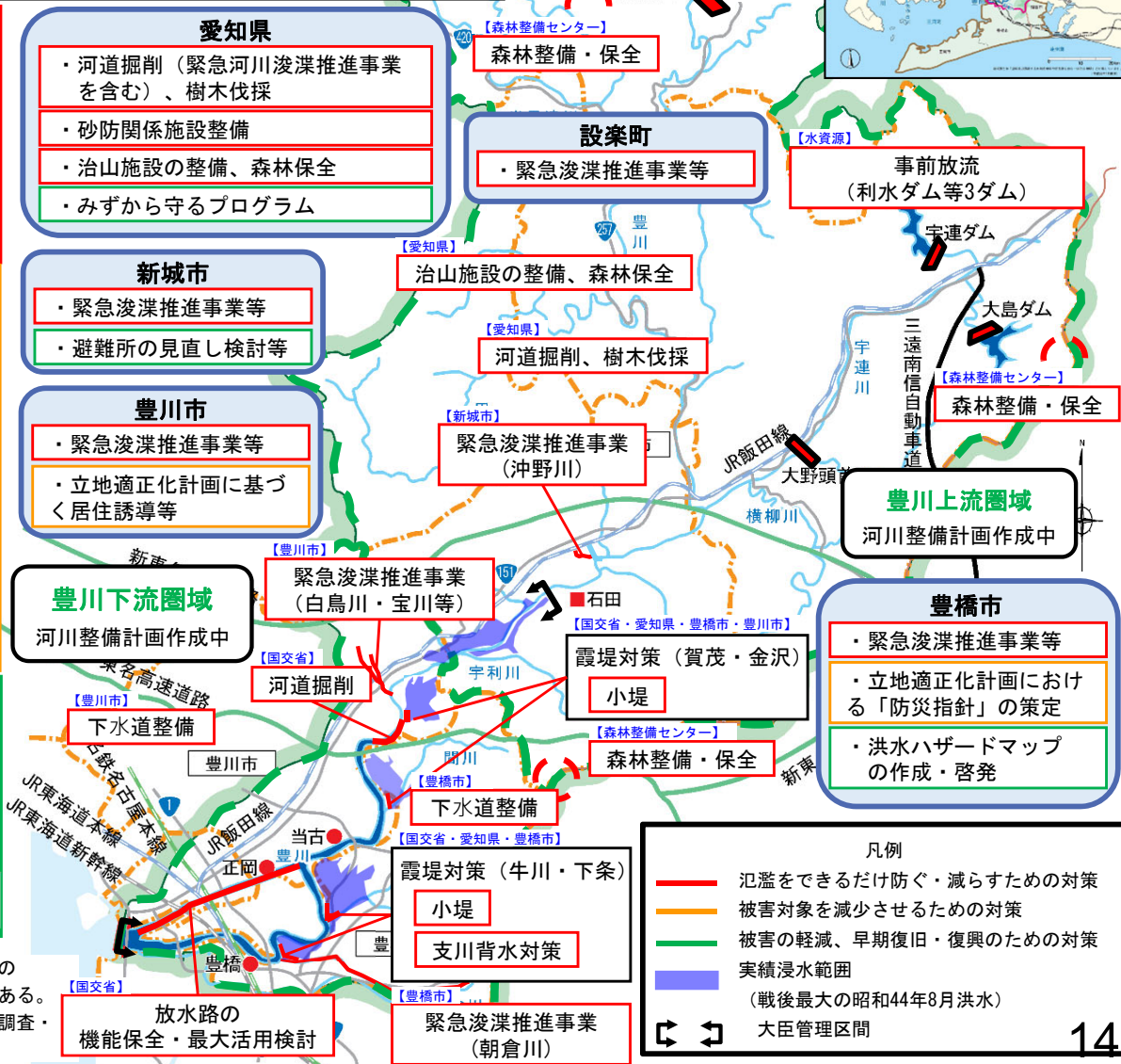
※赤枠は上記資料に加筆

# 豊川水系流域治水プロジェクト 【位置図】

～日本の東西をつなぐ「交通の要衝」を水害から守る流域治水対策～

令和4年3月末公表

- 令和元年東日本台風では、各地で戦後最大を超える洪水により甚大な被害が発生したことを踏まえ、豊川水系においても、事前防災対策を進める必要がある。
- 豊川流域は産業経済の根幹をなす交通の要衝であり、無堤区間のある霞堤地区を有するなど水害リスクが高い流域であることから、霞堤対策や浸水リスクが高い地域の「安全なまちづくり」に向けた立地適正化計画の推進、霞堤地区浸水被害軽減対策計画等のソフト対策の整備を実施する。
- これらの取組により、国管理区間においては、戦後最大の昭和44年8月洪水と同規模の洪水に対し、破堤等による甚大な被害を防止するとともに流域における浸水被害の軽減を図る。



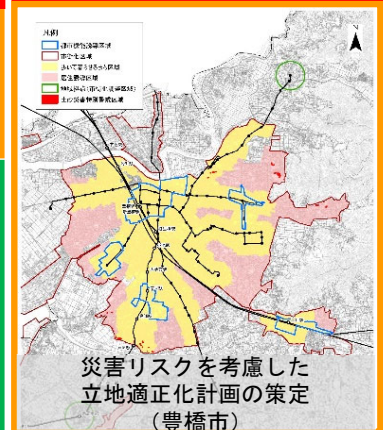
## ● 氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

- ・河道掘削、堤防整備、樹木伐採、緊急浚渫推進事業
- ・霞堤対策(小堤、支川背水対策)4箇所
- ・設楽ダム建設
- ・放水路の機能保全・最大活用検討
- ・流出抑制対策  
(利水ダム等3ダムにおける事前放流等の実施、体制構築、下水道(雨水)整備、砂防関係施設整備、流域貯留池事業、治山施設の整備、森林の間伐、森林整備・保全 等)



## ● 被害対象を減少させるための対策

- ・頻発・激化する自然災害に対応した「安全なまちづくり」にむけた取組  
(立地適正化計画、土地利用規制・誘導(災害危険区域等))



## ● 被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

- ・被害軽減対策  
(排水作業準備計画の検証、要配慮者利用施設の避難確保計画の作成促進、避難場所や経路に関する情報周知、土砂災害警戒区域等の指定・周知)
- ・住民の主体的な避難行動を促す取り組み  
(「みずから守るプログラム」の普及促進、防災講座・防災訓練、ハザードマップの作成・周知、住民の水害リスクに対する理解促進の取組、洪水プッシュ型情報配信、水害リスクライン配信、土砂災害リスク情報の現地表示、浸水予想図作成等)
- ・ソフト対策のための整備  
(霞堤地区浸水被害軽減対策計画、水害リスクの高い区間の監視体制の整備、水害リスク空白域の解消 等)



## ● グリーンインフラの取り組み 次ページ



※大臣管理区間以外は、県・市管理河川の代表的な箇所(河川)を示したものである。  
※具体的な対策内容については、今後の調査・検討等により変更となる場合がある。

凡例

- 氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策
- 被害対象を減少させるための対策
- 被害の軽減、早期復旧・復興のための対策
- 実績浸水範囲 (戦後最大の昭和44年8月洪水)
- 大臣管理区間

# 豊川水系流域治水プロジェクト 【位置図】

～日本の東西をつなぐ「交通の要衝」を水害から守る流域治水対策～

令和4年3月末公表

## ●グリーンインフラの取り組み 『下流域の多様な生物の生息環境の再生と環境学習による地域振興』

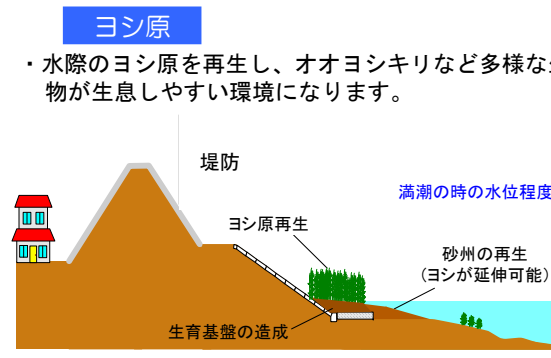
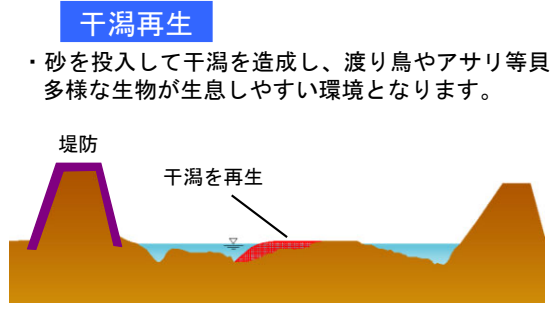
- 湿地や干潟が少なくなった日本では、豊川河口の干潟やヨシ原は渡り鳥にとって貴重な場所・中継地となっている。また豊川の河口干潟は全国有数のアサリ稚貝の生息場所であり、豊川本川の特徴のひとつとなっている河畔林は、鳥の巣や、魚のかくれ場になるなど、生物の集まる豊かな自然環境となっている。
- 豊川河口域の減少した干潟を再生することにより、多様な生態系の回復を図るため、令和10年度までにアサリやハマグリ等の底生生物が生息できる河川環境の再生や、環境学習・自然体験の場の創出など、自然環境が有する多様な機能を活かすグリーンインフラの取組を推進する。
- 豊川が本来有していたヨシ原を再生することにより、多様な生態系の回復を図るため、令和10年度までにオオヨシキリ等の鳥類が生息できる河川環境や自然河岸のある景観の再生など、自然環境が有する多様な機能を活かすグリーンインフラの取組を推進する。



河口干潟を利用した生物観察会



- 自然環境の保全・復元などの自然再生  
干潟再生、ヨシ原再生
- 自然環境が有する多様な機能活用の取組み  
環境学習、自然観察







# 豊川水系流域治水プロジェクト【事業効果（国直轄区間）の見える化】

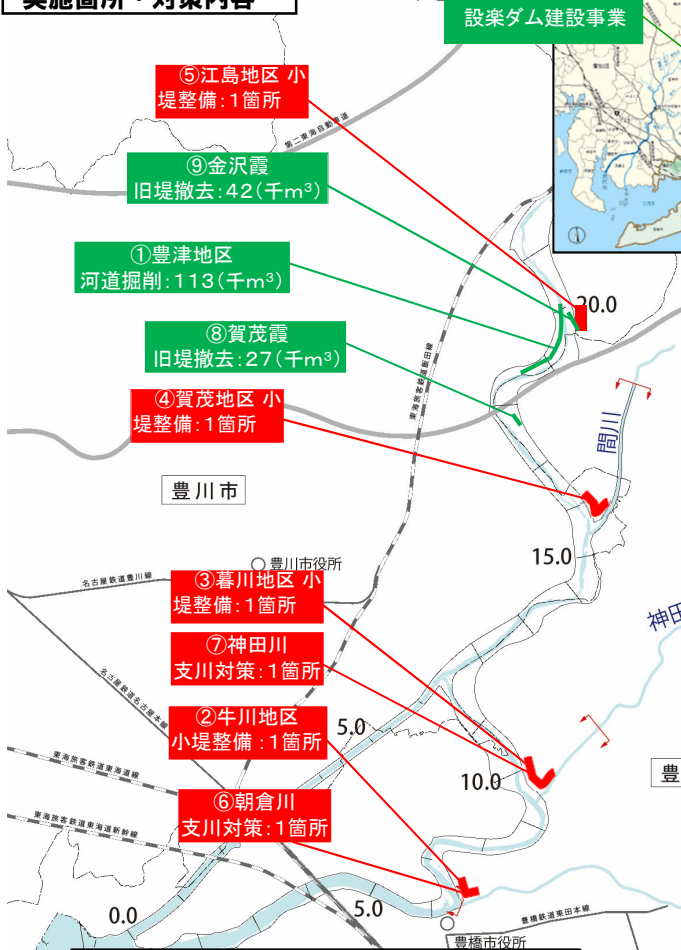
～日本の東西をつなぐ「交通の要衝」を水害から守る流域治水対策～

令和4年3月末公表

**短期整備（5カ年加速化対策）効果** : **河川整備率 約63%→約63%**

設楽ダム completion に合わせ、地域の浸水被害の軽減を図ることが可能

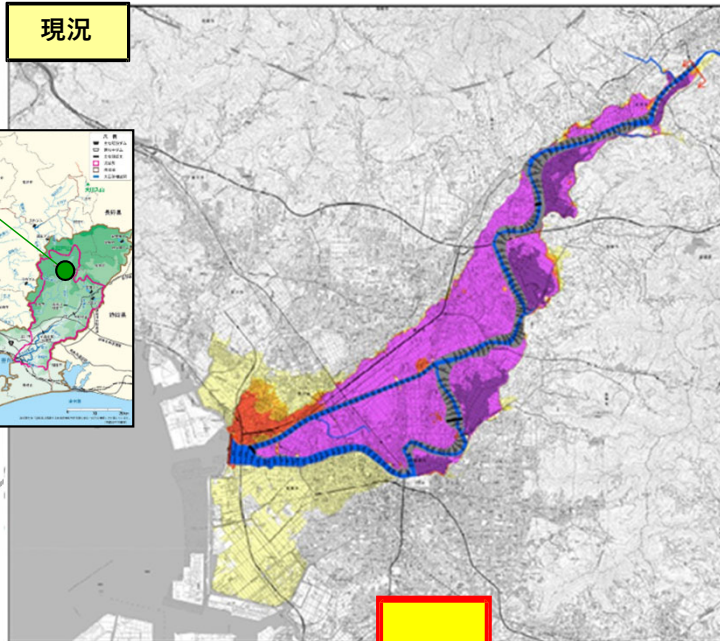
### 実施箇所・対策内容



### 凡例

- |    |     |             |
|----|-----|-------------|
| 短期 | 中長期 | (整備予定箇所)    |
| ■  | ■   | : 小堤整備・支川対策 |
| ■  | ■   | : 河道掘削・旧堤撤去 |

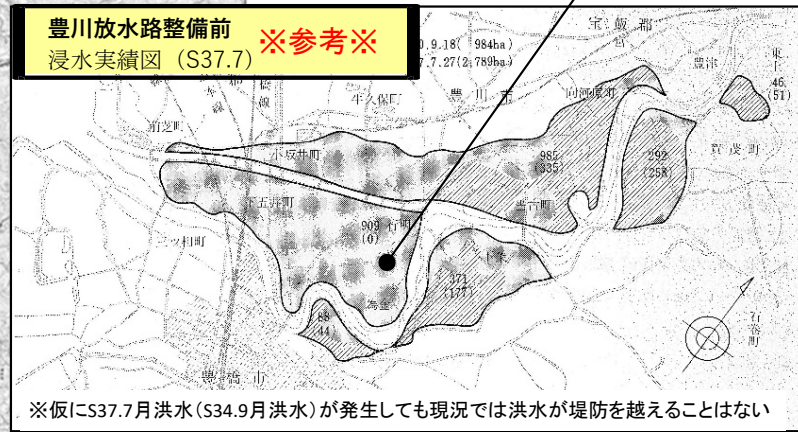
### 現況



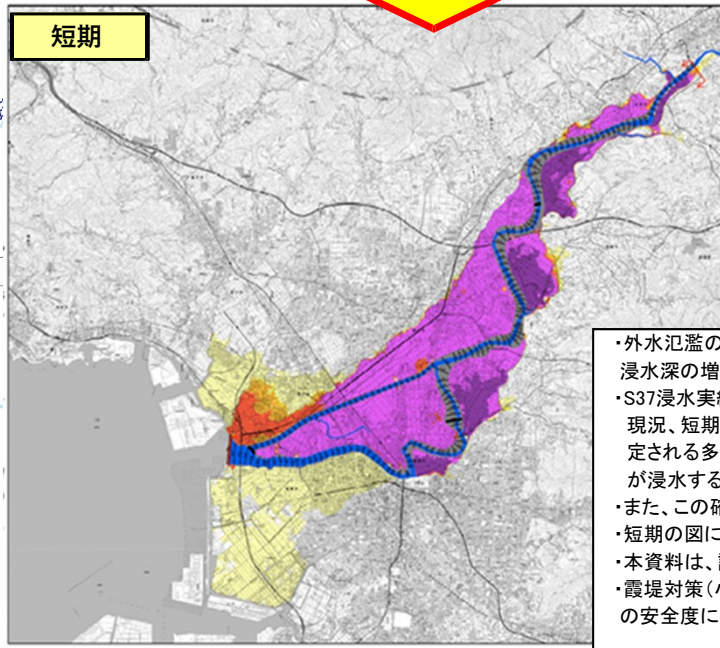
- 高頻度(1/10)
- 中高頻度(1/30)
- 中頻度(1/50)
- 中低頻度(1/100)
- 低頻度(1/150)
- 想定最大規模



### 豊川放水路整備前 浸水実績図 (S37.7) ※参考※



### 短期



区分	対策内容	区間	工程	
			短期(R3~R7年度) 1/2~1/20(R)	中長期(R8~R12年度) 1/20~1/50(R+1)
氾濫をできるだけ防ぎ減らすための対策	河道掘削 0 → 0%	① 豊津地区	100%	100%
	霞堤対策(小堤整備) 0 → 100%	② 牛川地区	100%	100%
		③ 暮川地区	100%	100%
		④ 賀茂地区	100%	100%
		⑤ 江島地区	100%	100%
霞堤対策(支川対策) 0 → 100%	⑥ 朝倉川	100%	100%	
	⑦ 神田川	100%	100%	
霞堤対策(旧堤撤去) 0 → 0%	⑧ 賀茂霞	100%	100%	
	⑨ 金沢霞	100%	100%	
関連事業			設楽ダム完了	100%

- ・外水氾濫のみを想定したものであり、内水氾濫を考慮した場合には、浸水範囲の拡大や、浸水深の増大が生じる場合があります。
- ・S37浸水実績図については、1回の洪水氾濫で浸水した区域を示したものです。現況、短期については、年超過確率1/10、1/30、1/50、1/100の降雨により浸水した場合に想定される多段階の浸水想定図を重ね合わせたものであり、一度の洪水で図の着色範囲全てが浸水するというシミュレーションではありません。
- ・また、この確率以下の洪水においても、侵食等により破堤する可能性があります。(※1)
- ・短期の図については、国直轄事業の実施による効果です。
- ・本資料は、調整中のものであり、今後事業進捗等により変更が生じる可能性があります。
- ・霞堤対策(小堤整備)の効果は、設楽ダムの完成とともに考慮すべきものであることから、短期の安全度においては見込んでいません。

# 豊川水系流域治水プロジェクト【流域治水の具体的な取組】

～日本の東西をつなぐ「交通の要衝」を水害から守る流域治水対策～

令和4年3月末公表

<p>戦後最大洪水等に対応した河川の整備</p>  <p>整備率 63% (概ね5か年後)</p>	<p>農地・農業用施設の活用</p>  <p>2市町村 (令和3年度末時点)</p>	<p>流出抑制対策の実施</p>  <p>0施設 (令和2年度実施分)</p>	<p>山地の保水機能向上 および土砂・流木災害対策</p>  <p>治山対策等の実施箇所 9箇所 (令和3年度実施分) 砂防関係施設の整備数 1施設 (令和3年度完成分)</p>	<p>立地適正化計画における 防災指針の作成</p>  <p>0市町村 (令和3年12月末時点)</p>	<p>避難のための ハザード情報の整備</p>  <p>洪水浸水想定区域 2河川 (令和3年12月末時点) 内水浸水想定区域 0団体 (令和3年11月末時点)</p>	<p>高齢者等避難の実 効性の確保</p>  <p>避難確保 洪水 296施設 計画 土砂 42施設 (令和3年9月末時点) 個別避難計画 2市町村 (令和4年1月1日時点)</p>
--	---	--	--	---	--	--

### 氾濫を出来るだけ防ぐ・減らすための対策



**○流域貯留浸透事業(豊川市)**

- 下水道事業の一環として新規の調整池(麻生田調整池)を整備し、流出抑制を図る。
- 既設の調整池(当古調整池)を改良し、貯留・浸透能力の強化。

【令和3年度実績】  
堤体造成工、舗装工などを実施。(麻生田調整池)

### 被害対象を減少させるための対策



**○立地適正化計画における「防災指針」の策定(豊橋市)**

- 災害ハザード情報と都市情報を重ね合わせ、都市の防災上の課題を抽出。
- 抽出した課題を踏まえ、「回避」と「低減」を基本に具体的な取り組み内容を検討。
- 土地利用をはじめハード・ソフト対策を組み合わせ、都市の安全性を高め、「住民の命と暮らしを守る、安全・安心を兼ね備えたまち」を目指し、有識者の意見を踏まえ防災指針を策定。

【令和3年度実績】  
都市計画審議会に中間報告(R4.2)

### 被害の軽減、早期の復旧・復興のための対策

区分	カテゴリ	No.	内容	事業主体	実施する目標期間			進捗状況
					第1期 (令和4年以内 (R3.6.30))	第2期 (令和5年以内 (R3.9.30))	R3 第3期 (令和6年10月以内 (R3.10.31))	
ソフト対策	情報提供(雨天時)	1	浸水浸水水位等の設定	国土交通省	(観測)	(観測)	(観測)	実施済
		2	CCTVカメラ・積算水位計等の設置	国土交通省	(設置)	(設置)	(設置)	実施済
		3	情報の配信やアプリによるメールの配信	国土交通省・豊橋市・豊川市	(開発・試験運用)	(運用)	(運用)	実施済
		4	街中の露地地区の浸水状況把握	豊橋市・豊川市	(試験運用)	(設置)	(設置)	実施済
ソフト対策	情報提供(平常時)	5	浸水案内看板等の設置	愛知県・豊橋市・豊川市	(観測)	(設置)	(設置)	実施済
		6	時系列の浸水想定区域図の作成と提供	国土交通省	(作成・提供)	(作成・提供)	(作成・提供)	実施済
		7	ハザードマップの作成	豊橋市・豊川市	(作成・公開)	(作成・公開)	(作成・公開)	実施済
ソフト対策	自助・共助・公助による防災対策	8	防災情報の周知(出前講座の実施)	国土交通省・豊橋市・豊川市	(実施)	(実施)	(実施)	実施済
		9	情報伝達訓練の実施	国土交通省・豊橋市・豊川市	(実施)	(実施)	(実施)	実施済
ソフト対策	自助・共助・公助による防災対策	10	農機具の保管場や住民の一時避難場所の確保等(ハザードマップへの反映)	国土交通省・豊橋市・豊川市	(実施)	(実施)	(実施)	運用中
		11	他の事業主体との連携	豊橋市・豊川市	(実施)	(実施)	(実施)	実施済
ソフト対策	ハード	12	小堤及び浸水防止の設置(排水ポンプ等含む)	国土交通省	(用地・設計)	(用地・設計)	(用地・設計)	実施中

**○霞堤地区浸水被害軽減対策計画(愛知県、豊橋市、豊川市、豊橋河川事務所等)**

- 豊川霞堤地区における浸水被害の軽減を図るため、平成28年に対策計画を策定。
- 霞地区内の浸水状況等の情報提供などのソフト対策や、浸水頻度・浸水面積・浸水時間を軽減することができるハード対策を実施。
- 定期的に進捗管理を行い、効率的かつ効果的な浸水被害軽減を目指す。

【令和3年度実績】  
作業部会(R3.6)、地元説明会(R3.9)、協議会(R4.1)に実施。

# ③ 豊川水系流域治水プロジェクトの取り組み状況

- 令和4年3月に第5回流域治水協議会を開催し、令和3年度の関係者の取り組み内容を相互に確認すると共に、新たな考え方を追加するなど、更なる「流域治水」の発展に向けて意見を頂いた。

## ■ 第5回豊川水系流域治水協議会を開催（R4.3.7）

近年の激甚化・頻発化する水害に備え、豊川流域において、あらゆる関係者が協働して流域全体で水害を軽減させる治水対策「流域治水」を計画的に推進することを目的として、「豊川流域治水協議会」を適宜開催しています。

今回「第5回 豊川流域治水協議会」を開催し、令和3年度の関係者の取り組み内容を相互に確認すると共に、新たな考え方を追加するなど、更なる「流域治水」の発展に向けて意見を頂きました。

### 【開催概要】

日時：令和4年3月7日（月）  
15：30 - 16：30

会場：WEB開催

### 【主な議事】

- ・これまでの取組状況等について
- ・豊川水系流域治水プロジェクトの充実（提案）

協議会開催状況（WEB）



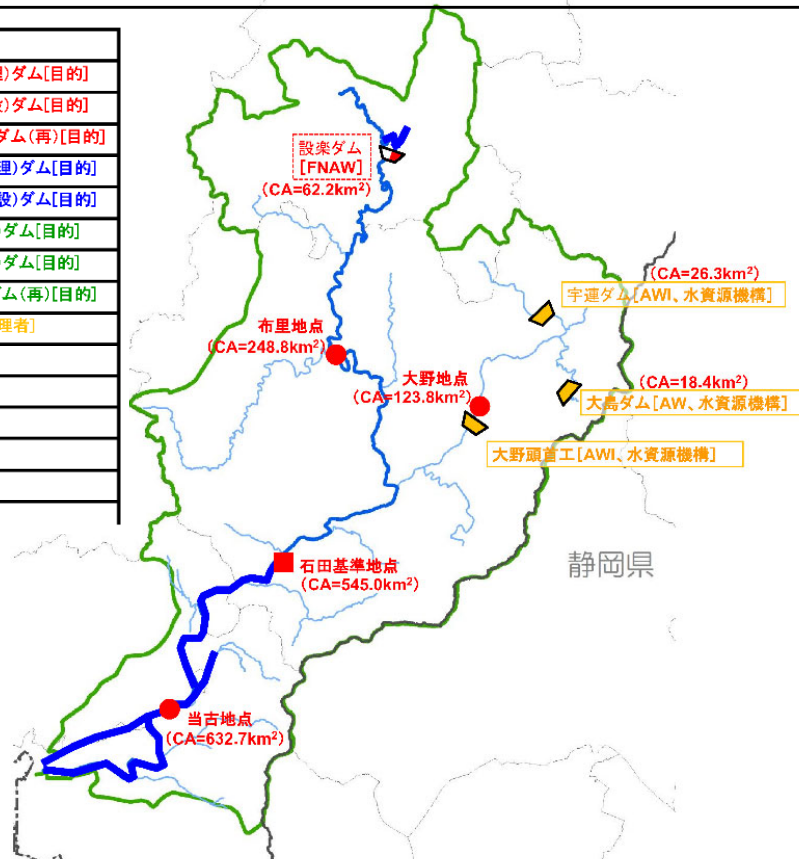
### 【主な意見】

- ・豊川流域治水協議会規約の改定案が決議されました。
- ・豊川流域治水プロジェクトの新たな取組みとしてグリーンインフラの紹介と、充実として効果の見える化を提案し承認されました。
- ・豊川市：霞堤地区のために、設楽ダム completion と霞小堤の整備を期待している。本市でも、麻生田調整池の整備や、農機具の避難所の設置を進めている。また、地元ケーブルTVと連携協定を締結し、河川の水位情報としてライブ映像をテレビで確認できるようにした。
- ・新城市：今後も引き続き緊急浚渫推進事業を進めると共に、雨水管理総合計画や無堤防部の堤防化の検討などを実施し、水害から市民の生命財産を守っていく。協議会を通じて、関係機関と情報共有を図っていきたい。
- ・設楽町：水災害の発生が予想される箇所から順に河川の浚渫事業を進めている。着手可能な対策から実施し、住民が少しでも安心して生活できる基盤づくりを目指している。
- ・愛知県建設局：県民の生命財産を守るため、ハード対策と共に、みずから守るプログラム等のソフト対策の普及に努める。
- ・愛知県農林基盤局：市町村や農家の皆さんと協力して、農村整備事業や森林整備事業を推進し、中下流域の氾濫防止に貢献したい。
- ・水資源機構：来年の出水期も事前放流を適切に実施する。
- ・林野庁愛知森林管理事務所：治山事業による森林保全や間伐等により森林の浸透能を向上させ継続的に豪雨災害の被害軽減を図っていく。

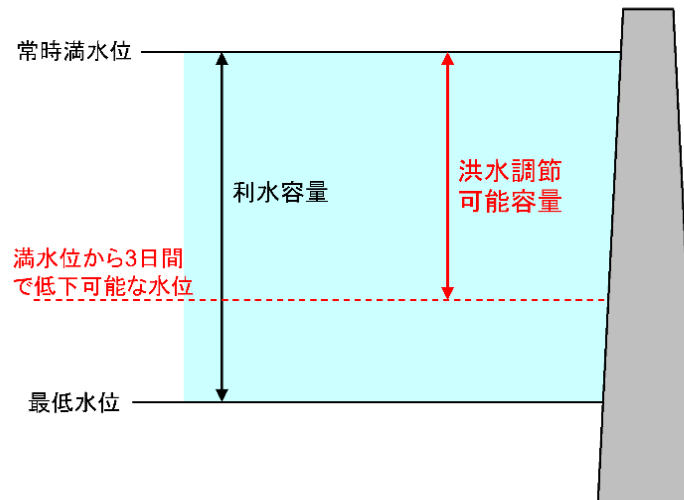
# ④ 豊川治水協定に基づく事前放流の実施状況

- 豊川では、豊川水系内の全ての既存ダム（3ダム）を対象として、令和2年6月10日付けで治水協定を締結。
- 治水協定の締結により、最大約490万<sup>3</sup>m確保されることとなり、洪水時に洪水調節に利用可能な容量は、総有効貯水容量の約12%に強化。
- 令和4年度には、宇連ダムにおいて2回（9月17日8時30分～17日14時30分、23日12時20分～15時21分）、大島ダムにおいて1回（9月16日13時～17日20時40分）事前放流を実施。なお、事前放流実施後に貯水位は回復。

凡 例	
	国土交通省所管(直轄管理)ダム[目的]
	国土交通省所管(直轄建設)ダム[目的]
	国土交通省所管(直轄建設)ダム(再)[目的]
	国土交通省所管(水機構管理)ダム[目的]
	国土交通省所管(水機構建設)ダム[目的]
	国土交通省所管(県管理)ダム[目的]
	国土交通省所管(県建設)ダム[目的]
	国土交通省所管(県建設)ダム(再)[目的]
	利水ダム[目的、管理者]
	基準地点
	主要な地点
	県境
	市町村境
	流域界
	大臣管理区間



## ■ 洪水調節可能容量のイメージ



利水として利用できる容量(利水容量)のうち、放流設備(洪水吐ゲートや利水放流管)からの放流により、満水位の状態から3日間で確保できる容量。

## ◆ 令和4年の事前放流実施状況

洪水名	ダム名	河川名	事前放流実施時間	事前放流による確保容量(万 <sup>3</sup> m)
9月16日 台風14号	宇連ダム	宇連川	6時間	119.5
	大島ダム	大島川	31時間40分	61.5
9月23日 台風15号	宇連ダム	宇連川	3時間1分	110.3

## ◆ 治水協定における各ダムの洪水調節可能容量

ダム	洪水調節容量(万 m <sup>3</sup> )	洪水調節可能容量 <sup>※</sup> (万 m <sup>3</sup> )	基準降雨量(mm)
大野頭首工	0	6.0	180
宇連ダム	0	336.9	180
大島ダム	0	147.7	180

※水利用への補給を行う可能性が低い期間等において水位を低下させた状態とする貯水池運用を行うことにより確保可能な容量を含む